

単元指導計画

単元の目標

- ・ 友達と力を合わせて「かだん」を完成させる。
- ・ 自分の役割を理解し、責任をもってやり遂げる。

指導計画(全16単位時間)

「かだんづくり」の依頼を受ける (1 単位時間)



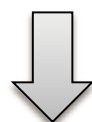
- ・ 校長先生の説明を聞く。
- ・ 「かだん」のイメージをもつ。

「かだんづくり」の計画を立てる (1 単位時間)



- ・ 「かだん」に植える花の相談をする。
- ・ 必要な材料・道具を考える。

「かだんづくり」の準備をする (1 単位時間)



- ・ 「かだん」をつくる場所を調査する。
- ・ 作業用シートを設置する。
- ・ リヤカーなど用具を用意する。

「かだんづくり」 (7 単位時間)

・ 雑草とり
・ 肥料

・ 土づくり
(耕す、土を
ふるう)

・ かだんのふ
ちどり (レン
ガ運び、レン
ガ並べ)

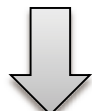
(係に分かれて取り組む)

記録用写真
の撮影

「かだんにつき」の
作成・掲示

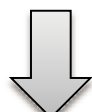
作業経過の報告

花の苗を植える (3 単位時間)



- ・ 花の苗を購入する。(商店街の花屋で買い物)
- ・ 苗の植え付けをする。

「かだん発表会」の準備をする (2 単位時間)



- ・ 発表会のチラシづくりをする。
- ・ 司会や発表の練習をする。

「かだん発表会」 (1 単位時間)



実践の様子

「かだんづくり」の依頼



「かだんづくり」は、校長先生からの依頼で始まりました。校長先生から、花いっぱいのできる学校になるよう、「かだん」を造ってほしいという話を聞きました。「かだん」のイメージを聞き、「かだん予想図」を示してもらうことで、「かだんづくり」のイメージが共有できました。

校長先生から直接頼まれたことで、児童の意欲も高まりました。

「かだんづくり」の準備



「かだん」を造るのに必要な材料や道具について話し合いました。「かだん予想図」を参考に、「かだん」の縁にレンガを並べることにしました。

土やレンガなど、たくさんの重い荷物を運ぶために、学校のリヤカーを借りることにしました。



「かだんづくり」



【雑草取り】

「かだん」の設置場所に選んだのは、雑草や芝が深く根を張る土地で、作業には苦労しました。

見通しをもって取り組むことができるよう、作業する範囲をビニール紐で仕切り、毎回その範囲をきれいにすることに達成感を感じながら少しずつ作業を進めました。

教員も、児童と共に汗を流して働きました。

【土づくり】

土を耕し、土をふるう活動は、これまでも行ったことがあり、特に自信をもって取り組めた作業です。それぞれ使いやすい道具を選んで取り組みました。



【ふちどり】

重いレンガは、一つ一つ慎重に運びました。作業の準備段階として、リヤカーで仮置場までレンガを運ぶ活動も含めて、教員と一緒に全て児童が行いました。

「土づくり」を終えた土地に石灰で線を引き、レンガを丁寧に並べました。



花の苗を植える



「かだんづくり」の仕上げとなる作業は、全員で取り組みました。苗を植えた「かだん」の姿を見て、完成を喜び合いました。

毎時間交代で担当を決め、写真を撮影し、「かだんにつき」という壁新聞を作って活動の様子を紹介しました。



「かだんをつくろう」では単元のリーダーを決めて取り組みました。校長先生への報告もリーダーが行いました。「作業現場」で校長先生に進捗状況を確認してもらいました。



「かだん発表会」



「かだん発表会」には、他の学年の先生、保護者にも参加してもらい、完成した「かだん」のお披露目をしました。発表会の司会進行や、「かだん」の紹介も児童自身が行い、充実感を味わいながら「かだんづくり」の単元を終了しました。

～「かだん」ができるまで～



はじめは、使う道具や支援の方法を工夫しながら、一連の活動に全員一緒に取り組むことを考えていましたが、一人一人の活動の充実や作業の効率を考え、係に分かれて取り組む場面も設定することにしました。

単元の到達点が明確で見通しがもちやすく、指導する教員間の連携がしっかりできていれば、活動内容や児童に応じて役割分担することで活動が充実することが分かりました。

「かだんづくり」が本格的に始まってから、当番の児童が交代で「かだんにつき」を作成することにしました。他の学年の友達や教員に「かだんづくり」を紹介し、代表の児童が作業の経過を校長先生に報告したことで、自分たちの活動を人から認めてもらった経験ができたことも、児童の達成感や次の活動への意欲につながったと思います。



実践例2 「モルハウスをつくろう」

モルモットの飼育小屋をつくり、モルモットとの触れ合いを図った「つくる」ことをテーマとした単元です。

- ◆ 学校・学部 視覚障害特別支援学校
知的障害を併せ有する教育課程 小学部 6名
- ◆ 活動の期間 11月（2週間）
- ◆ 指導時数 12単位時間

単元の構想



近隣の動物公園とは、これまでもよい関係を築いており、一年間に何回か見学に行く機会を設けています。この活動を見学に分かりやすいストーリーのある単元として構成し、生き物に触れる経験や動物公園の職員の方々との交流を充実させたいと考えました。

当初の単元構想

- 単元名：
モルモット博士になろう
- 目標：
・小さな生き物を慈しむ心を育てる。
・分かったことを発表する。
- 主な活動：
・動物公園の見学
・モルモットの観察
・飼育員さんへの質問
・分かったことの発表



単元名は、具体的に活動がイメージできる名称がよい。主となる活動をもう一度考え直してみよう。

モルモットのことを調べて、モルモットに詳しくなることは、児童の生活に結び付いた活動だろうか。
モルモットと触れ合い、一緒に楽しむ時間を充実させるような単元にしたい。

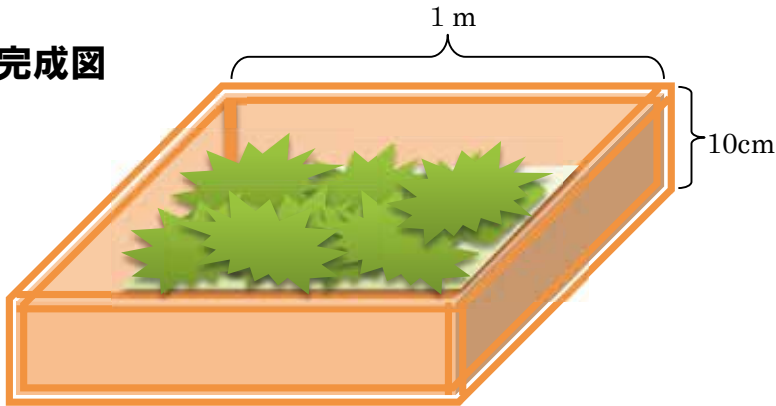
自分たちでモルモットの世話をすることを目指す単元にしたらどうか。動物公園ではうまく触れ合えない児童も、教室で世話をする活動なら積極的に関わることができるかもしれない。

「一緒に遊ぶ」ために調べる活動や、「つくる」活動を設定すると、児童も期待や意欲をもって取り組めるのではないか。

- モルモットを学校に招いて、モルモットと一緒に遊ぶことを到達点として、モルモットハウスをつくることを主とした活動にしよう。

「モルハウス」づくりについて

完成図



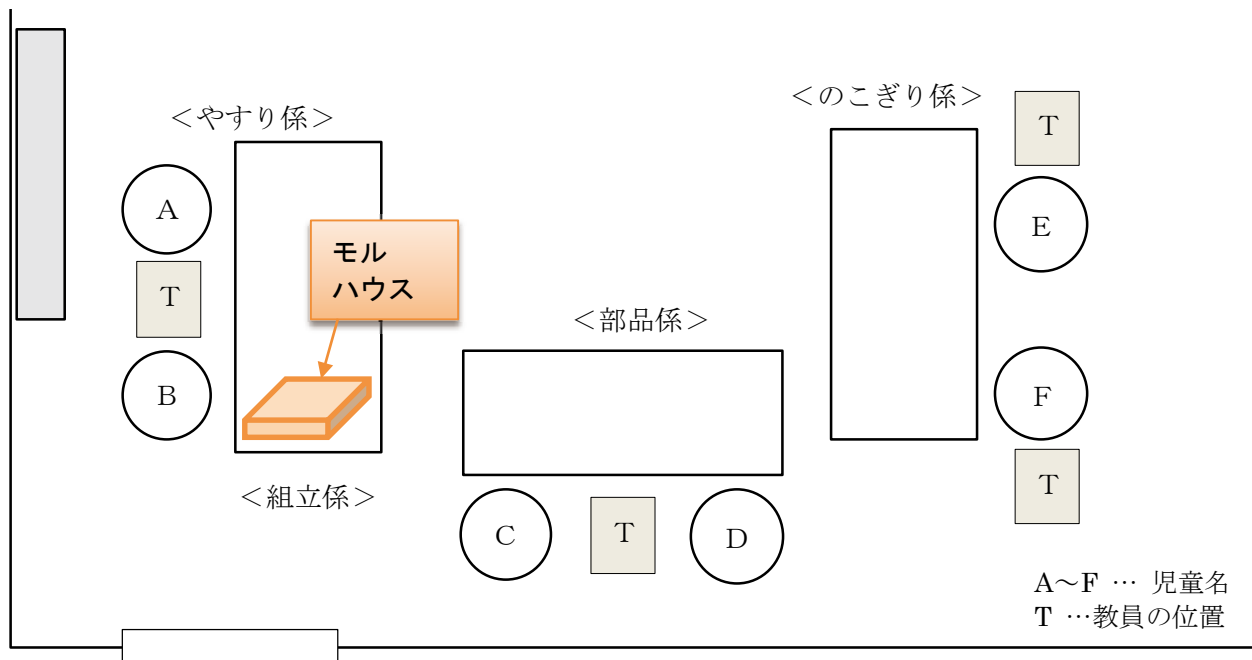
- 視覚障害の児童が見たり触れたりしやすいよう、木材で四方を囲んだ、屋根のない「部屋」の形にしました。
- 動物公園の職員の方に相談して「部屋」の壁の高さを決めました。

「モルハウス」づくりの工程を、作業しやすいように4つの活動に分け、役割分担をしました。

作業の工程	支援の方針
●角材をのこぎりで切る。	児童自身で安全に扱えるようなのこぎりの設置の仕方を工夫する。
●切り口にやすりをかける。	視覚障害の児童でも理解できるような作業終了の合図（見通し）を用意する。
●角材を木工用接着剤で貼り合わせ「壁」の部品をつくる。	木材同士の高さを揃えて貼ることができるような補助具を工夫する。
●部品を貼り合わせ「壁」を組み立てる。	木工用接着剤をつける場所や部品を貼り付ける位置を分かりやすく示す。

児童が安全に自分の力で取り組みやすいような環境を整えました。

教室内の配置



単元指導計画

単元の目標

- ・友達と一緒に「モルハウス」をつくり、「みんなでつくった」という達成感をもつ。
- ・自分から進んでモルモットや飼育員と関わる。

指導計画(全12単位時間)

モルモットに会いに行こう (2 単位時間)
(動物公園の見学)



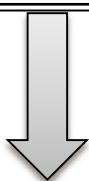
- ・モルモットを観察する。
- ・飼育員に説明を聞く。

モルモットを学校によぼう (1 単位時間)
(モルモットハウスづくりの計画)



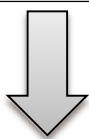
- ・モルモットの世話の仕方を話し合う。

「モルハウス」をつくろう (4 単位時間)



- ・木材の切り分け
 - ・やすりがけ
 - ・部品作り
 - ・組立
- 全員で取り組む。
↓
係に分かれて
分担して取り組む。

モルモットをむかえよう (3 単位時間)
(移動動物園)



- ・飼育員さんへの質問を考える。
- ・モルハウスの仕上げをする。
- ・モルモットとの触れ合いを体験する。

移動動物園

モルモット発表会 (2 単位時間)

- ・感想を発表する。
- ・モルモットクイズを出し合って楽しむ。

他の学級の児童を招待

*担当以外の教職員から協力を得て、学校全体で「単元づくり」に取り組みました。



・「モルハウス」
づくりに使う特別
教室の優先利用

・教材・補助具
作成への支援、ア
ドバイス

視覚障害の児童には、説明や手順を聞いて理解することができる音声教材が効果的です。経営企画室の職員にも声の出演で協力をお願いしました。

